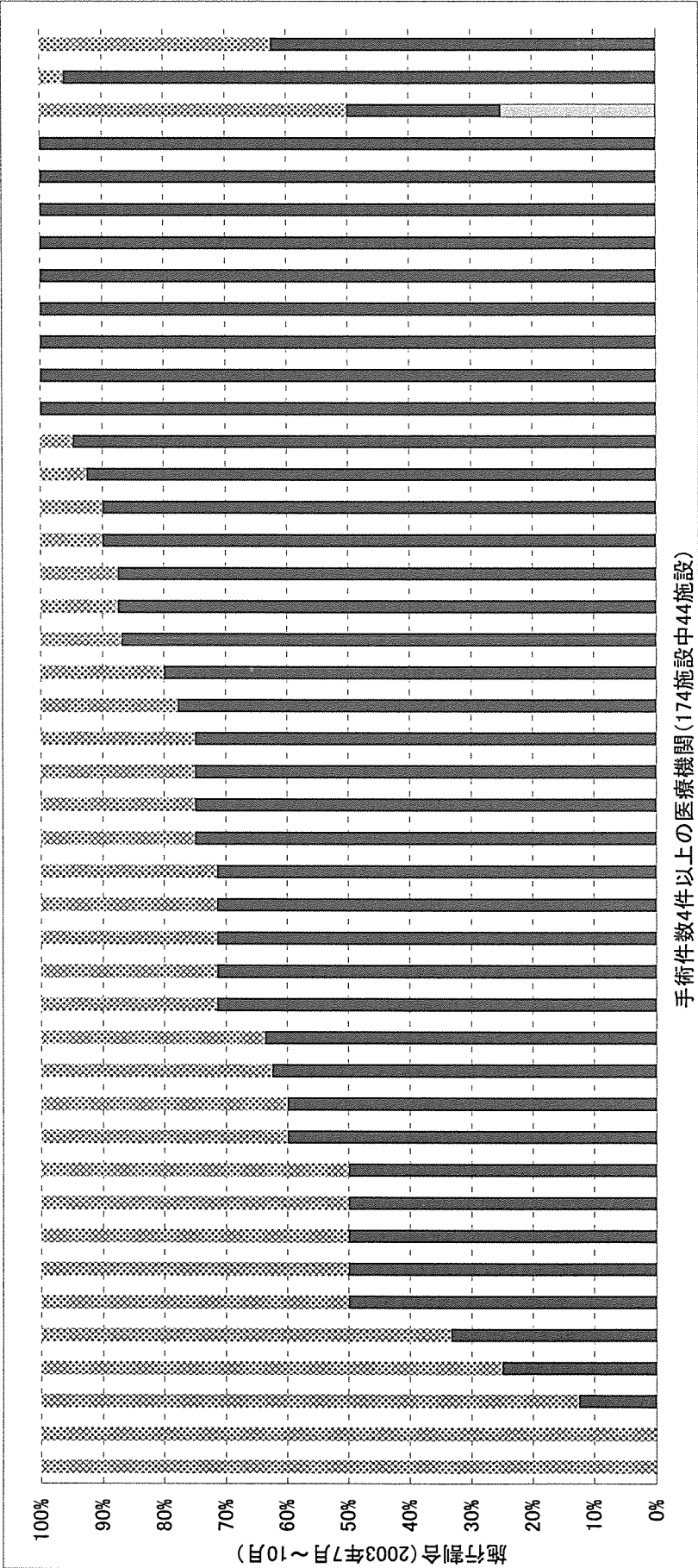


股関節大腿近位骨折(その他部位)における年齢・術式別手術施行割合(N = 384)

解析対象DPC番号の範囲 1608003		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
股関節大腿近位骨折	骨折観血の手術64歳以下 割合	29%	27%	0%	100%	0%	0%	7%	25%	43%	62%	86%
	骨折観血の手術65歳以上 割合	70%	28%	0%	100%	14%	28%	50%	75%	92%	100%	100%
	人工骨頭挿入術64歳以下 割合	1%	4%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	人工骨頭挿入術65歳以上 割合	0%	2%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

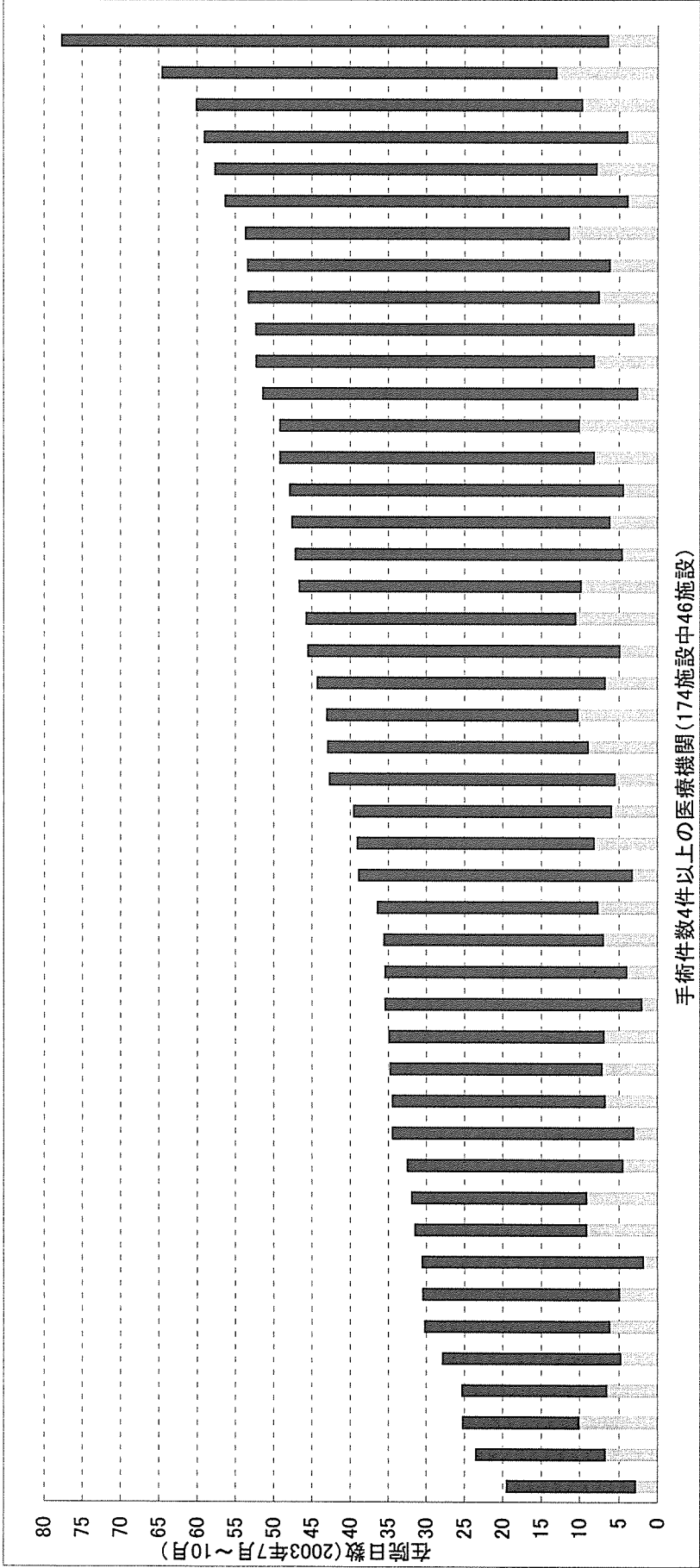


【図の説明】

【コメント】

股関節大腿近位骨折(全部位)の人工骨頭挿入術施行症例における平均在院日数(N = 289)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
1608003x01		解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
分類名	股関節大腿近位骨折における人工骨頭挿入術施行症例	在院日数		42.5	12.0	19.6	77.8	25.4	29.1	34.6	42.9	50.9	57.1	59.9
		術後在院日数		36.0	11.7	15.3	71.5	17.5	22.8	28.2	34.8	43.4	50.3	52.4
		術前在院日数		6.5	2.7	1.8	12.9	2.6	3.0	4.4	6.5	8.0	10.0	10.4



【図の説明】

全症例の97.5%以上2.5%未満を除外し、手術件数上位25%の施設を解析対象(手術件数:4件以上)とした。

術前在院日数

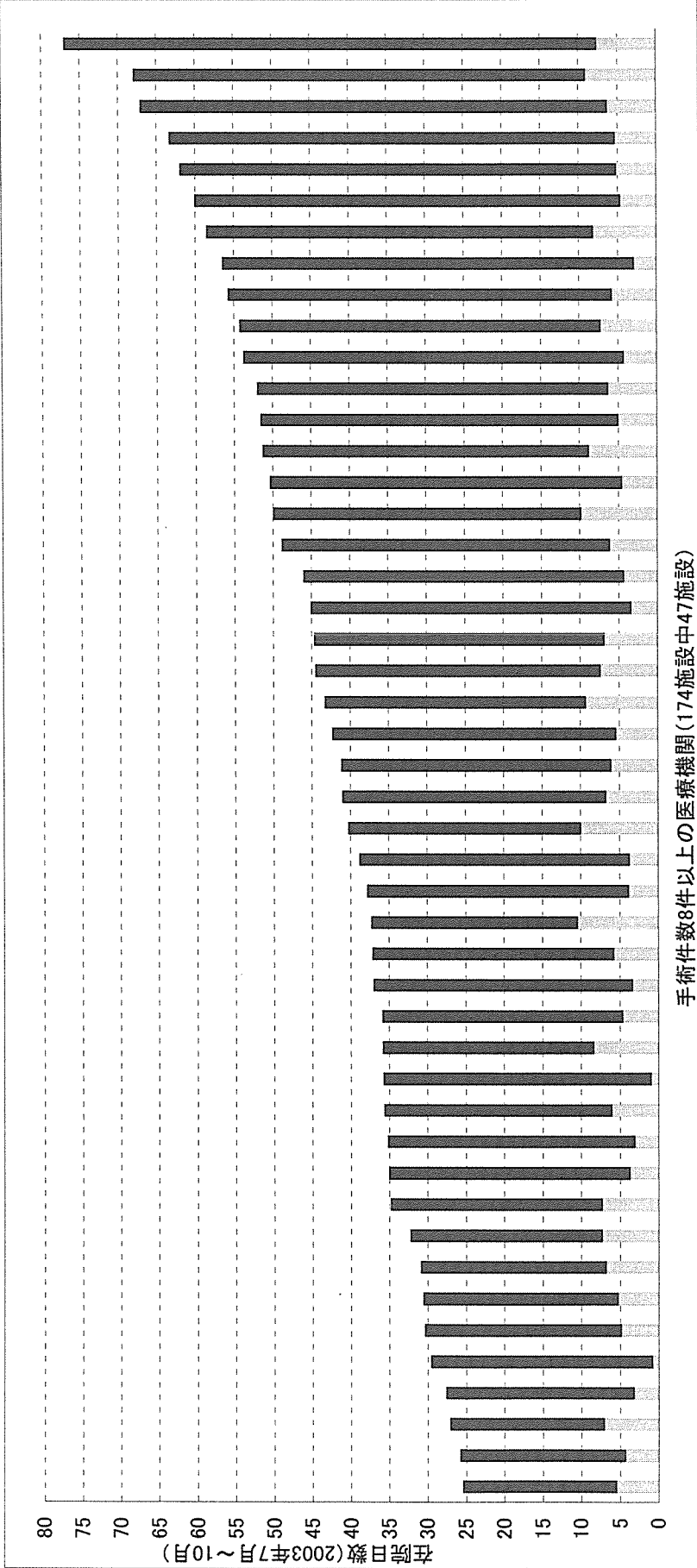
術後在院日数

【コメント】

全症例の97.5%以上と2.5%未満の症例を除外し、4か月間の大腿近位骨折(全部位:頸部、転子部、骨幹部を含む)の手術件数が4件以上であった46施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は約7日で最小約2日、最大約13日と分布の幅は比較的狭いものの、術後在院日数では中央値約43日、最小値約15日、最大約72日とたいへん大きなバラツキを示していた。

股関節大腿近位骨折(全部位)の観血的手術施行症例における平均在院日数(N = 695)

解析対象DPC番号の範囲 1608003x02						パーセンタイル						
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
股関節大腿近位骨折における骨折観血的手術施行症例	在院日数	44.0	12.3	25.5	77.0	41.1	30.1	35.5	41.2	51.8	60.9	66.0
	術後在院日数	38.2	12.0	20.0	69.5	34.2	24.8	29.3	35.2	46.3	56.1	58.7
	術前在院日数	5.7	2.2	0.7	10.4	3.6	3.2	4.3	5.7	7.2	8.8	9.6



【図の説明】

全症例の97.5%以上2.5%未満を除外し、手術件数上位25%の施設を解析対象(手術件数:8件以上)とした。

術前在院日数

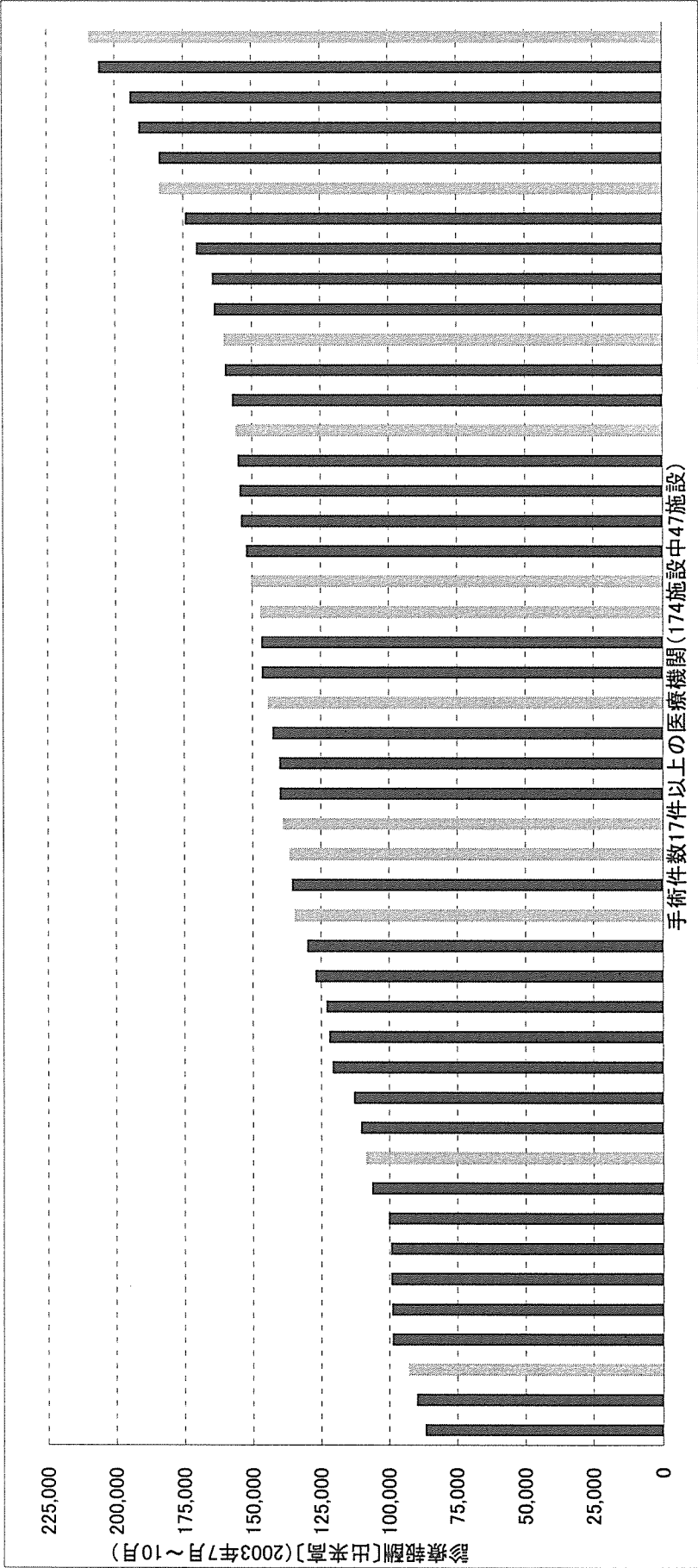
術後在院日数

【コメント】

全症例の97.5%以上と2.5%未満の症例を除外し、4か月間の大腿近位骨折(全部位:頸部、転子部、骨幹部を含む)の手術件数が8件以上であった47施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は約6日で最小約1日、最大約10日と分布の幅は比較的狭いものの、術後在院日数では中央値約35日、最小値20日、最大約70日とたいへん大きなバラツキを示していた。

股関節大腿近位骨折(全部位)手術症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N=1,383)

解析対象DPC番号の範囲 1608003		パーセンタイル											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
股関節大腿近位骨折症例	診療報酬〔出来高〕	140,846	31,235	86,815	209,375	140,742	99,316	116,867	142,551	158,454	183,686	193,359	
	特定機能病院(12施設)〔出来高換算総点数〕	146,836	30,476	93,105	209,375	145,036	111,215	135,908	145,580	156,910	181,327	195,243	
	その他の参加病院(35施設)〔出来高制度の総点数〕	138,793	31,662	86,815	205,793	140,130	99,268	111,712	140,139	158,454	179,885	192,071	

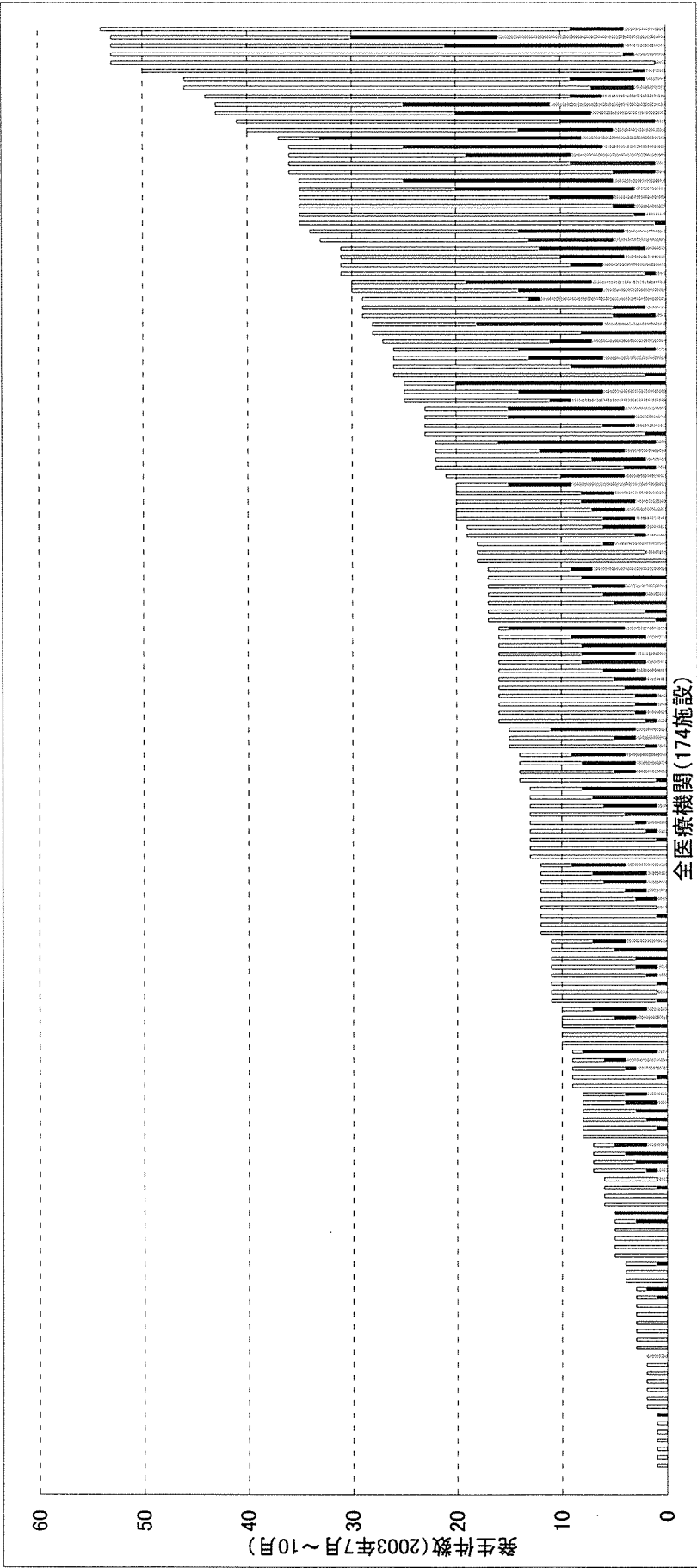


【図の説明】 全症例の97.5%以上2.5%未満を除外し、手術件数上位25%の施設を解析対象(手術件数:17件以上)とした。単位は診療報酬点数である。

【コメント】 全症例の97.5%以上と2.5%未満の症例を除外し、4か月間の大腿近位骨折(全部位:頸部、脛子部、骨幹部を含む)の手術件数が17件以上であった47施設を解析対象とした。全病院における診療報酬〔出来高〕の中央値は約14万2600点であったが、特定機能病院(12施設)の中央値はその他の参加病院よりも約5万4000点高額であった。

敗血症その他の感染症が最も医療資源を投入した傷病名である症例の年齢別発生件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル													
分類名	解析内容	発生件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
敗血症その他の感染症	敗血症その他の感染症の件数(全年齢)	3,010	17	13	0	54	1	3	8	14	25	36	43		
	敗血症その他の感染症の件数(15歳以上)	1,991	11	10	0	52	1	2	5	10	15	24	32		
	敗血症その他の感染症の件数(1～14歳)	673	4	5	0	25	0	0	0	2	5	10	13		
	敗血症その他の感染症の件数(乳児)	346	2	3	0	16	0	0	0	1	3	6	7		



【図の説明】

■ : 敗血症その他の感染症の件数(乳児)

■ : 敗血症その他の感染症の件数(1～14歳)

■ : 敗血症その他の感染症の件数(15歳以上)

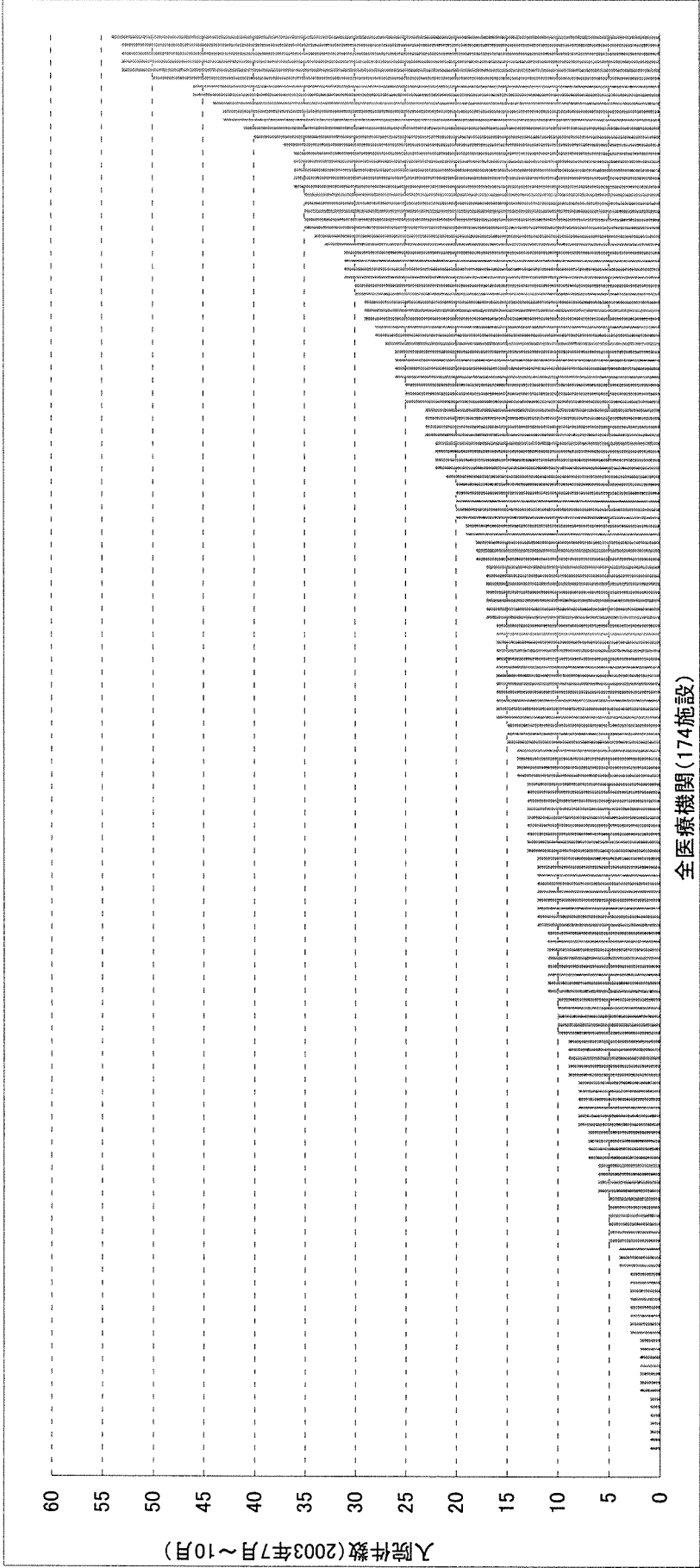
【コメント】

- ・敗血症その他の感染症の件数1件以上の医療機関は171施設(全体の98%)において見られた。
- ・敗血症その他の感染症の年齢別発生件数は、一般的に15歳以上の症例が最も多かったが、乳児および小児の敗血症の割合が高い医療機関も相当数存在した。
- ・入院後に、敗血症を合併した症例に関しては、横断的解析(図 MDC横断解析1～4)を参照。

骨盤骨折の入院件数

解析対象DPC番号の範囲 1609803

分類名	解析内容		入院件数	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
									5	10	25	50	75	90	95
骨盤骨折			3,011	17	13	0	54	1	3	8	14	25	36	43	



【図の説明】

：骨盤骨折の入院件数

全医療機関(174施設)

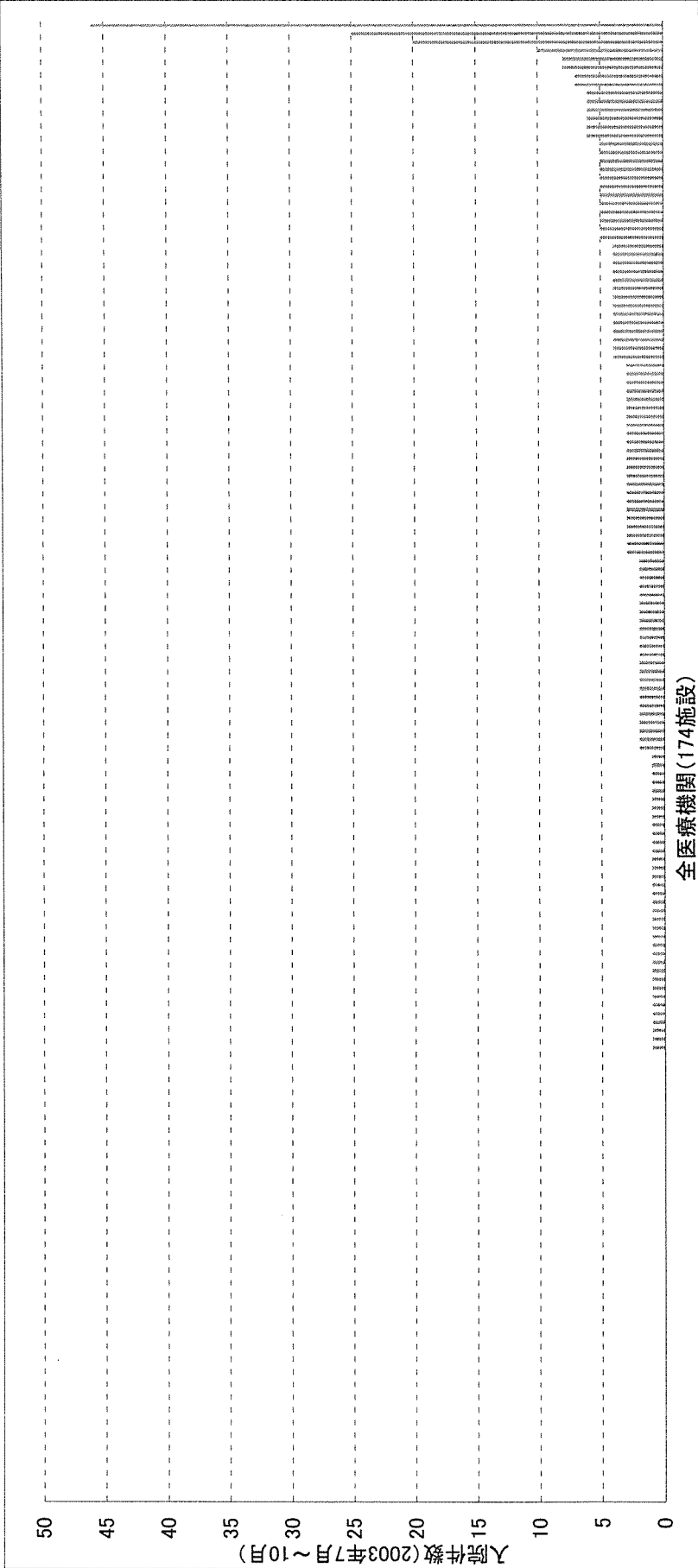
【コメント】

- ・骨盤骨折の入院件数1件以上の医療機関は171施設(全体の98%)において1件以上の症例が見られた。
- ・骨盤骨折の入院件数には、医療機関でのバラツキが見られた。

多発外傷の入院件数

解析対象DPC番号の範囲 1609903

分類名	解析内容	入院件数	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
								5	10	25	50	75	90	95
多発外傷	入院件数	433	2	4	0	46	0	0	0	0	1	3	5	6



【図の説明】

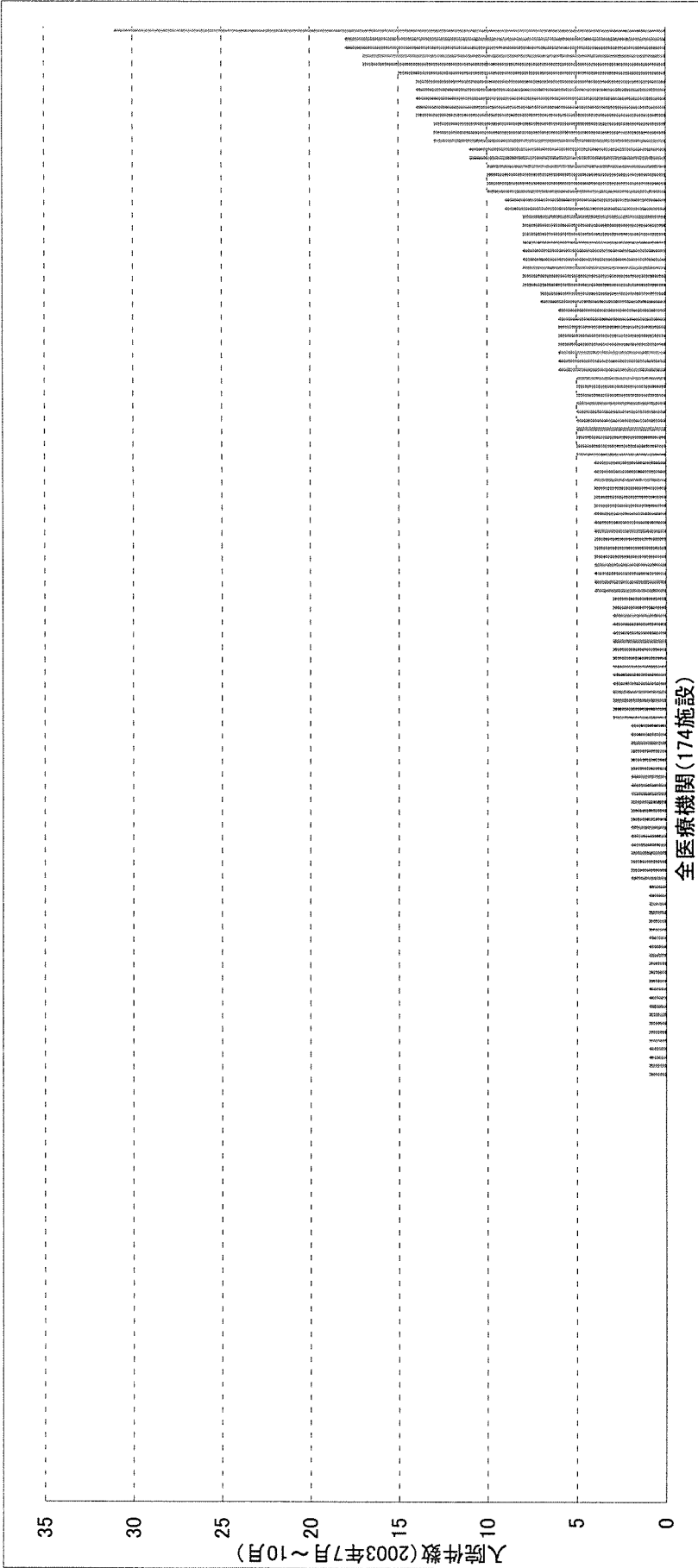
【コメント】

- ・多発外傷の入院件数1件以上の医療機関は121施設(全体の70%)において見られた。
- ・多発外傷の入院件数では、医療機関でのバランスキ見られた。

熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃症の入院件数

解析対象DPC番号の範囲 1610003

分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃症	入院件数	659	4	5	0	31	0	0	0	2	5	10	14



【図の説明】

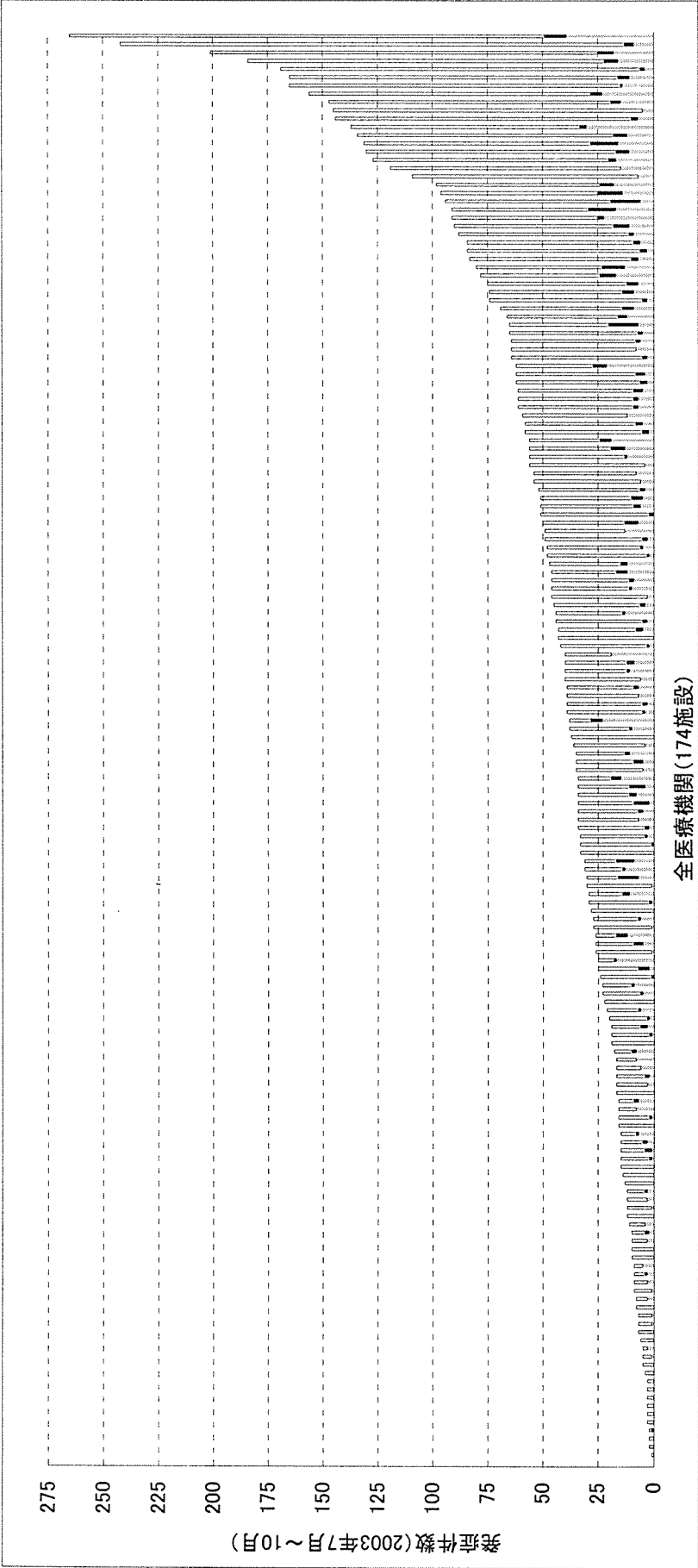
【コメント】

- ・熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃症の入院件数1件以上の医療機関は124施設(全体の71%)において見られた。
- ・熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃症の入院件数では、医療機関でのパズキが見られた。

MDC横断解析

入院後に発症した敗血症の件数

分類名	解析内容	発症件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の件数(全年齢)	8,402	48	46	0	265	3	7	16	36	61	106	146
	入院後に発症した敗血症の件数(15歳以上)	6,909	40	41	0	229	3	5	11	29	52	95	130
	入院後に発症した敗血症の件数(1～14歳)	392	2	3	0	13	0	0	0	1	3	6	7
	入院後に発症した敗血症の件数(乳児)	1,101	6	6	0	39	0	0	1	5	9	15	18



【図の説明】

入院後合併症1～4のICD-10コードが、P60\$/ O723/ O081/ D65のいずれかである件数

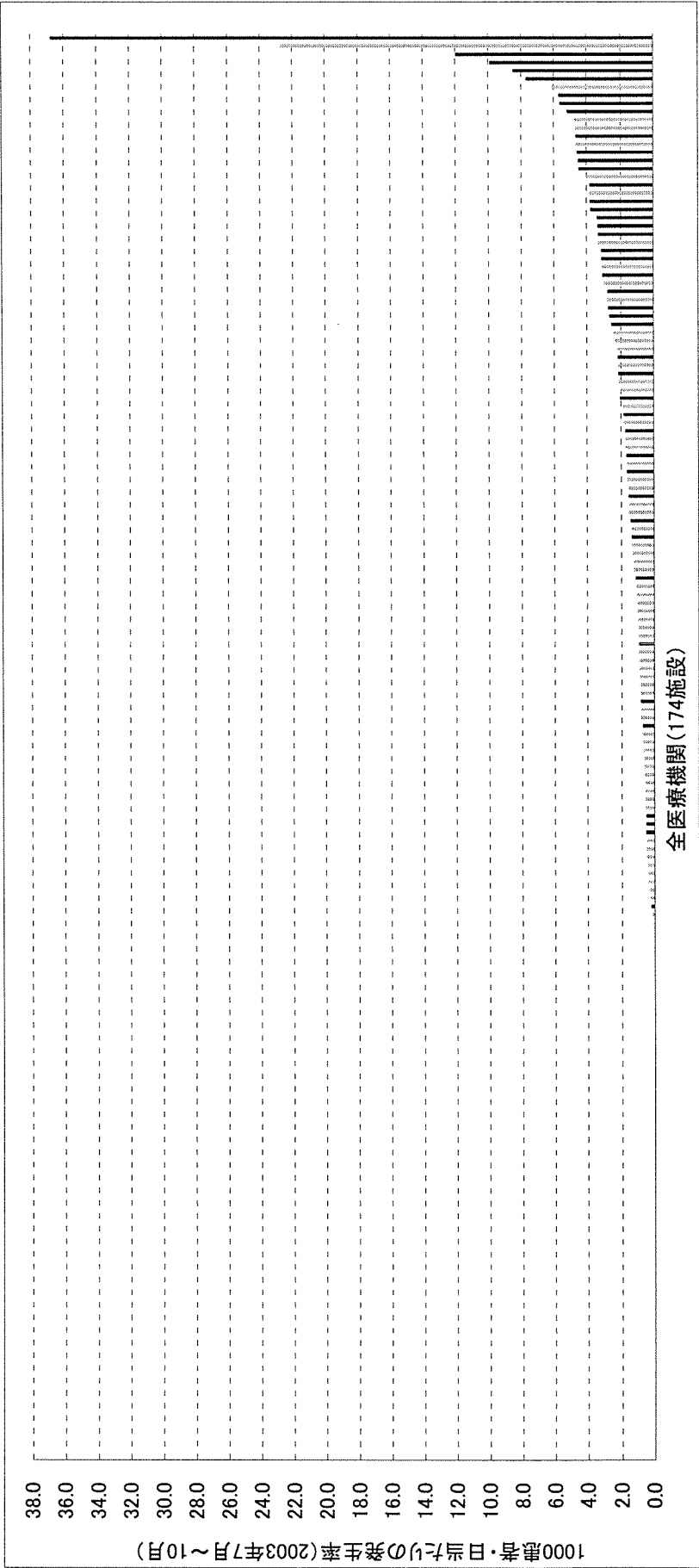
入院後に発症した敗血症(乳児) : 入院後に発症した敗血症(1～14歳) : 入院後に発症した敗血症(15歳以上)

【コメント】

・入院後に発症した敗血症の件数1件以上の医療機関(174施設中173施設(99%))。入院後合併症が「敗血症」であり、かつ「入院時併存症」の「入院の契機となった傷病名」のいずれも「敗血症」でない症例を選択した。入院後に敗血症を合併した症例のうち、「最も医療資源を投入した傷病名」が「敗血症」として分類されていた件数は、乳児で228件(58%)、1～14歳で579件(52%)成人で1134件(19%)であった。

入院後に発症した敗血症の発生率（乳児）

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
入院後に発症した敗血症（乳児）	入院後に発症した敗血症の発生率〔全施設〕	1.69	3.68	0.00	36.76	0.00	0.00	0.00	0.65	2.05	3.96	5.34
	入院後に発症した敗血症の発生率〔特定機能病院〕	1.43	2.68	0.00	22.73	0.00	0.00	0.29	0.86	1.67	3.04	4.54
	入院後に発症した敗血症の発生率〔その他の参加病院〕	1.93	4.41	0.00	36.76	0.00	0.00	0.00	0.00	2.71	4.57	6.79



【図の説明】

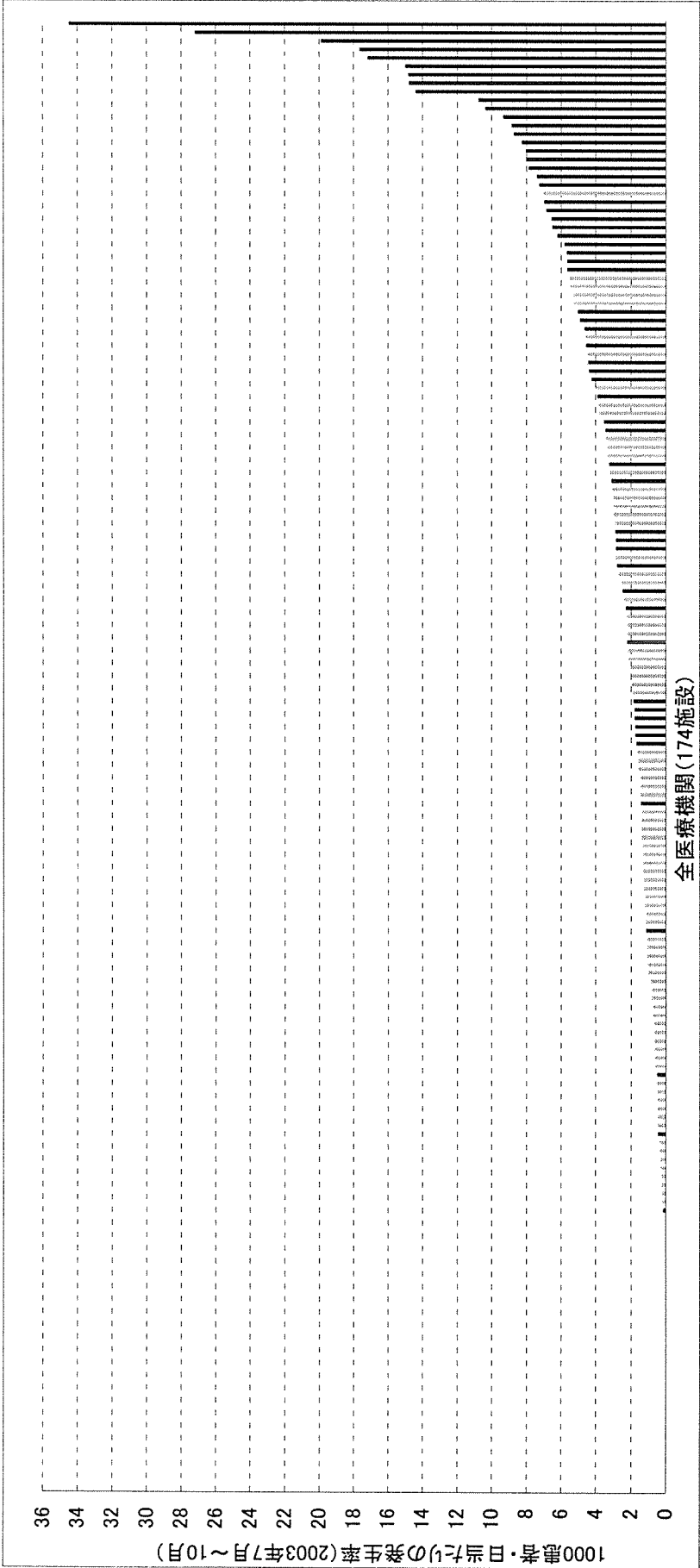
発生率を1000患者・日当たりで示す
■:特定機能病院

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は109施設(全体の63%)において見られた。
- ・乳児の入院後に発症した敗血症の発生率は、特定機能病院よりもその他の参加病院で高い傾向があった。

入院後に発症した敗血症の発生率（1～14歳）

分類名	対象	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
入院後に発症した敗血症（1～14歳）	入院後に発症した敗血症の発生率（1～14歳以上）〔全施設〕	3.21	4.76	0.00	34.48	0.00	0.00	0.44	1.61	3.96	7.73	12.04
	入院後に発症した敗血症の発生率（1～14歳以上）〔特定機能病院〕	1.80	1.48	0.00	7.03	0.21	0.38	0.68	1.33	2.59	3.80	5.17
	入院後に発症した敗血症の発生率（1～14歳）〔その他の参加病院〕	4.53	6.19	0.00	34.48	0.00	0.00	0.00	2.64	6.53	11.13	16.20



【図の説明】

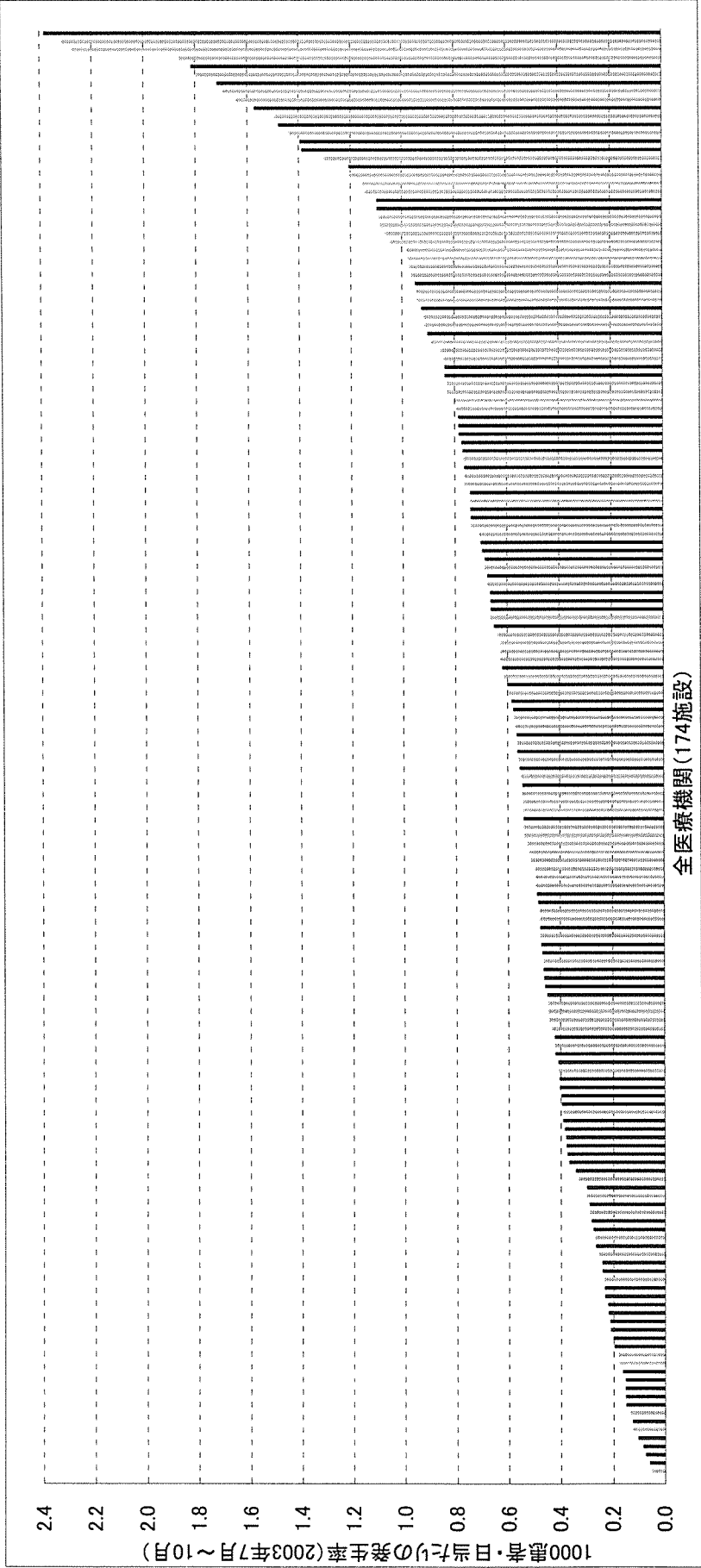
発生率を1000患者・日当たりで示す
特定機能病院
その他の参加病院

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は141施設（全体の81%）において見られた。
- ・1～14歳の入院後に発症した敗血症の発生率は、特定機能病院よりもその他の参加病院の方が高かった。

入院後に発症した敗血症の発生率（15歳以上）

分類名	対象	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
入院後に発症した敗血症	入院後に発症した敗血症の発生率(15歳以上)[全施設]	0.66	0.44	0.00	2.38	0.15	0.20	0.39	0.56	0.82	1.19	1.60
	入院後に発症した敗血症の発生率(15歳以上)[特定機能病院]	0.75	0.45	0.05	2.31	0.19	0.29	0.48	0.63	0.94	1.27	1.68
	入院後に発症した敗血症の発生率(15歳以上)[その他の参加病院]	0.57	0.42	0.00	2.38	0.11	0.15	0.28	0.47	0.74	1.10	1.44



【図の説明】

発生率を1000患者・日当たりで示す

：特定機能病院

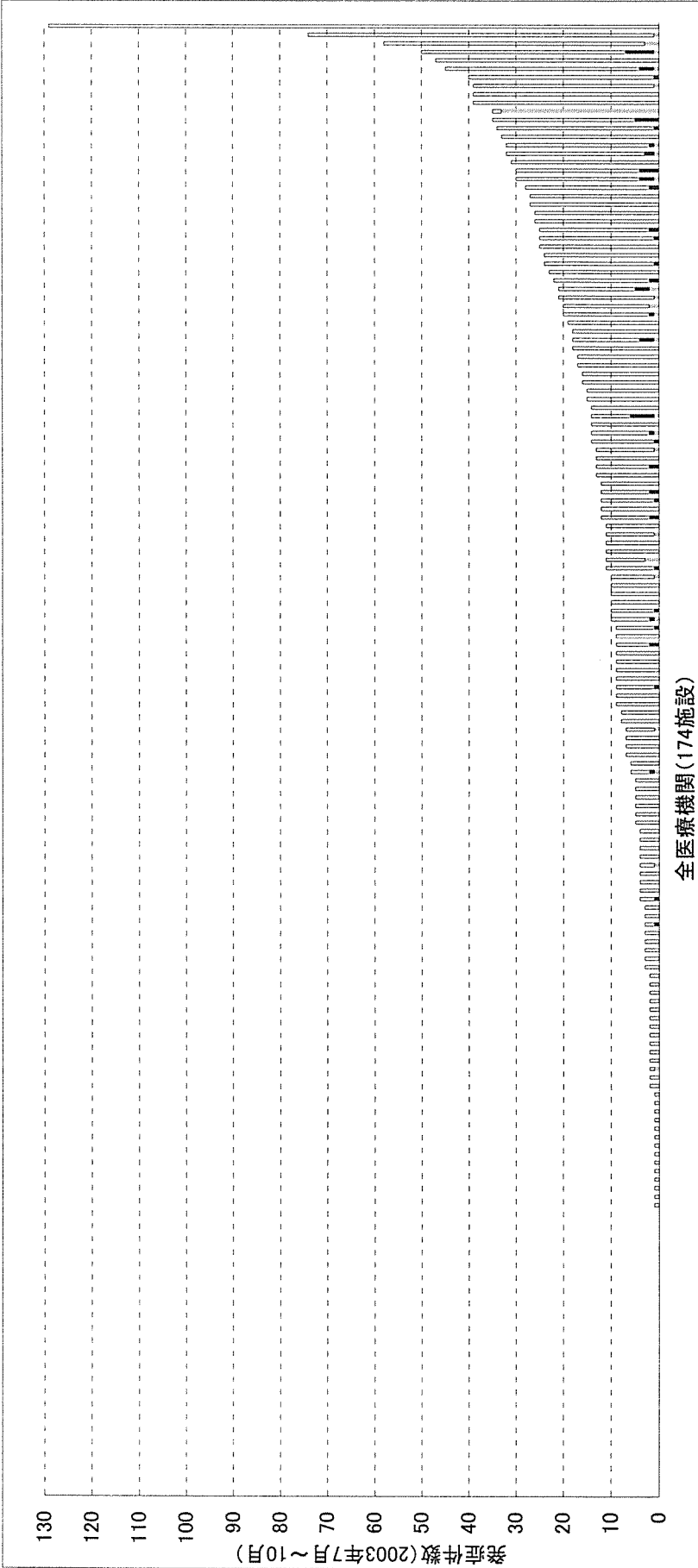
：その他の参加病院

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は173施設（全体の99%）において見られた。
- ・15歳以上の入院後に発症した敗血症の発生率は、15歳未満の発生率と比較すると低い傾向があった。
- ・15歳以上の入院後に発症した敗血症の発生率は、特定機能病院の方が高い傾向があった。

入院後に発症した播種性血管内凝固症候群 (DIC) の件数

分類名	解析内容	発症件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
							5	10	25	50	75	90	95	
入院後に発症した播種性血管内凝固症候群 (DIC)	入院後に発症したDICの件数 (全年齢)	1,991	11.4	15.7	0	129	0	0	1	7	15	30	39	
	入院後に発症したDICの件数 (15歳以上)	1,863	10.7	15.2	0	129	0	0	1	6	14	27	38	
	入院後に発症したDICの件数 (1～14歳)	65	0.4	1.0	0	6	0	0	0	0	0	1	2	
	入院後に発症したDICの件数 (乳児)	63	0.4	2.5	0	33	0	0	0	0	0	1	1	



【図の説明】

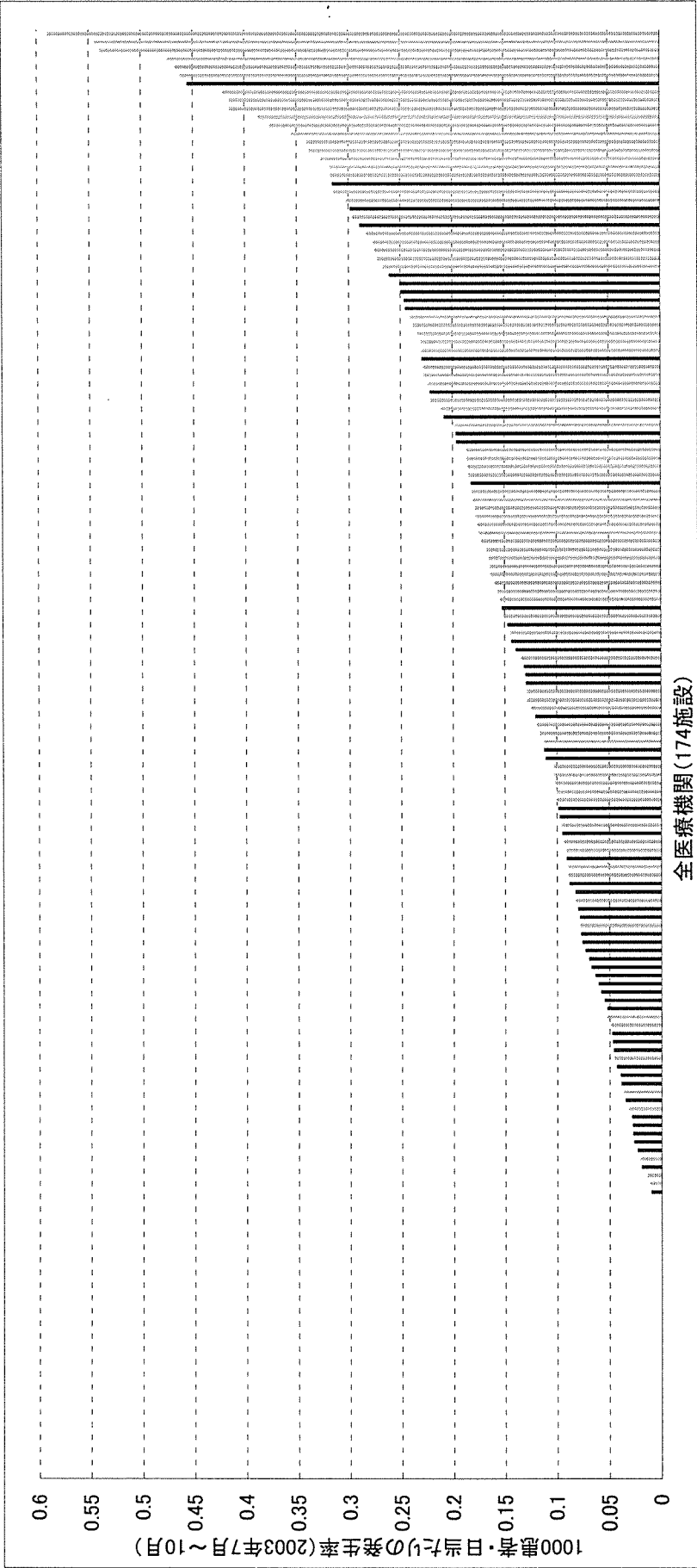
入院後に発症したDICの件数 (乳児) 入院後に発症したDIC (1～14歳) 入院後に発症したDIC (15歳以上)

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は140施設 (全体の80%) において見られた。
- ・入院後に発症した播種性血管内凝固症候群 (DIC) の件数は、主病名がDICである件数よりも多かった。

入院後に発症した播種性血管内凝固症候群(DIC)の発生率(15歳以上)

分類名	対象	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
入院後に発症したDIC(15歳以上)	入院後に発症したDICの発生率(15歳以上)〔全施設〕	0.14	0.13	0.00	0.59	0.00	0.00	0.03	0.11	0.22	0.32	0.41
	入院後に発症したDICの発生率(15歳以上)〔特定機能病院〕	0.21	0.13	0.00	0.59	0.03	0.06	0.11	0.18	0.28	0.41	0.47
	入院後に発症したDICの発生率(15歳以上)〔その他の参加病院〕	0.08	0.10	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	0.05	0.12	0.23	0.26



【図の説明】

発生率を1000患者・日当たりで示す
特定機能病院

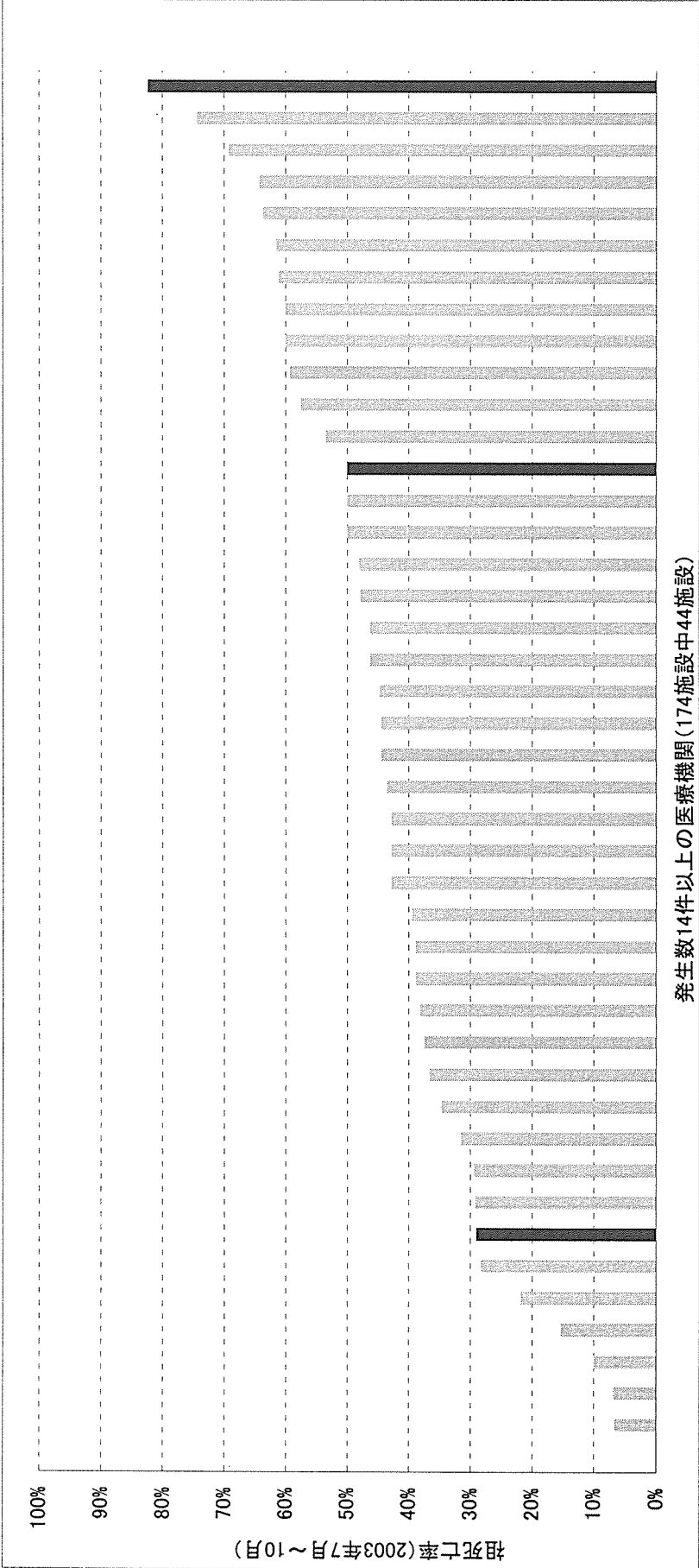
その他の参加病院

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は130施設(全体の75%)において見られた。
- ・15歳以上の入院後に発症したDICの発生率は、特定機能病院で高い傾向にあった。

入院後に発症したDICにおける死亡率(15歳以上)

分類名	対象	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
		5	10	25	50	75	90	95				
入院後に発症したDIC(15歳以上)	入院後に発症したDICの死亡率(15歳以上)〔全施設〕	43%	18%	0%	82%	7%	17%	34%	44%	54%	63%	68%
	入院後に発症したDICの死亡率(15歳以上)〔特定機能病院〕	43%	16%	7%	74%	10%	21%	36%	44%	54%	62%	64%
	入院後に発症したDICの死亡率(15歳以上)〔その他の参加病院〕	40%	35%	0%	82%	4%	9%	22%	40%	58%	73%	78%



【図の説明】

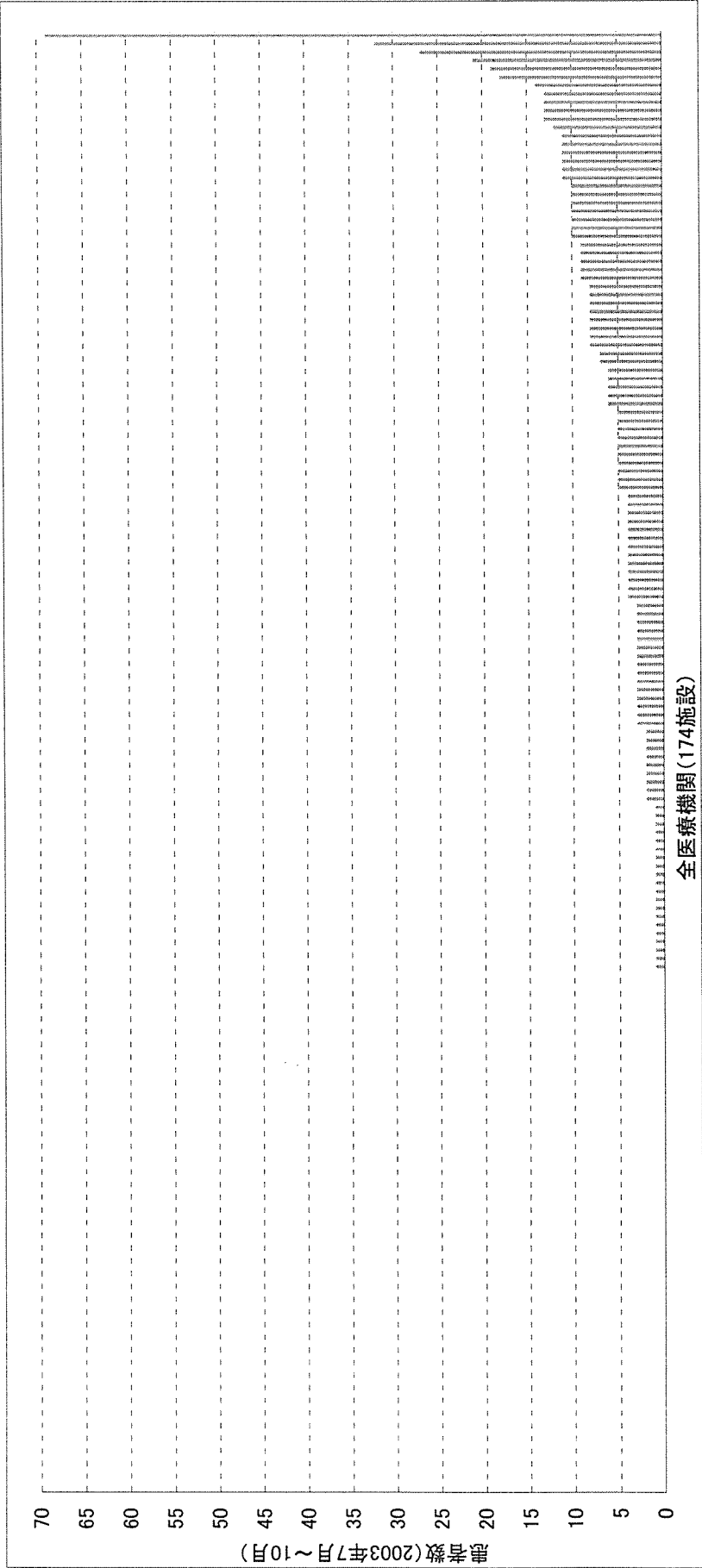
外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(14件以上)の施設を解析対象とした
□:特定機能病院

【コメント】

- ・粗死亡率(死亡割合)であるため、患者リスクなどを考慮していない。
- ・15歳以上の入院後に発症したDICの粗死亡率は、特定機能病院で高い傾向にあった。

入院中に血漿交換を施行した患者数

分類名	解析内容	患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
血漿交換	血漿交換を施行された延べ患者数	738	4	7	0	69	0	0	0	2	6	11	13



【図の説明】

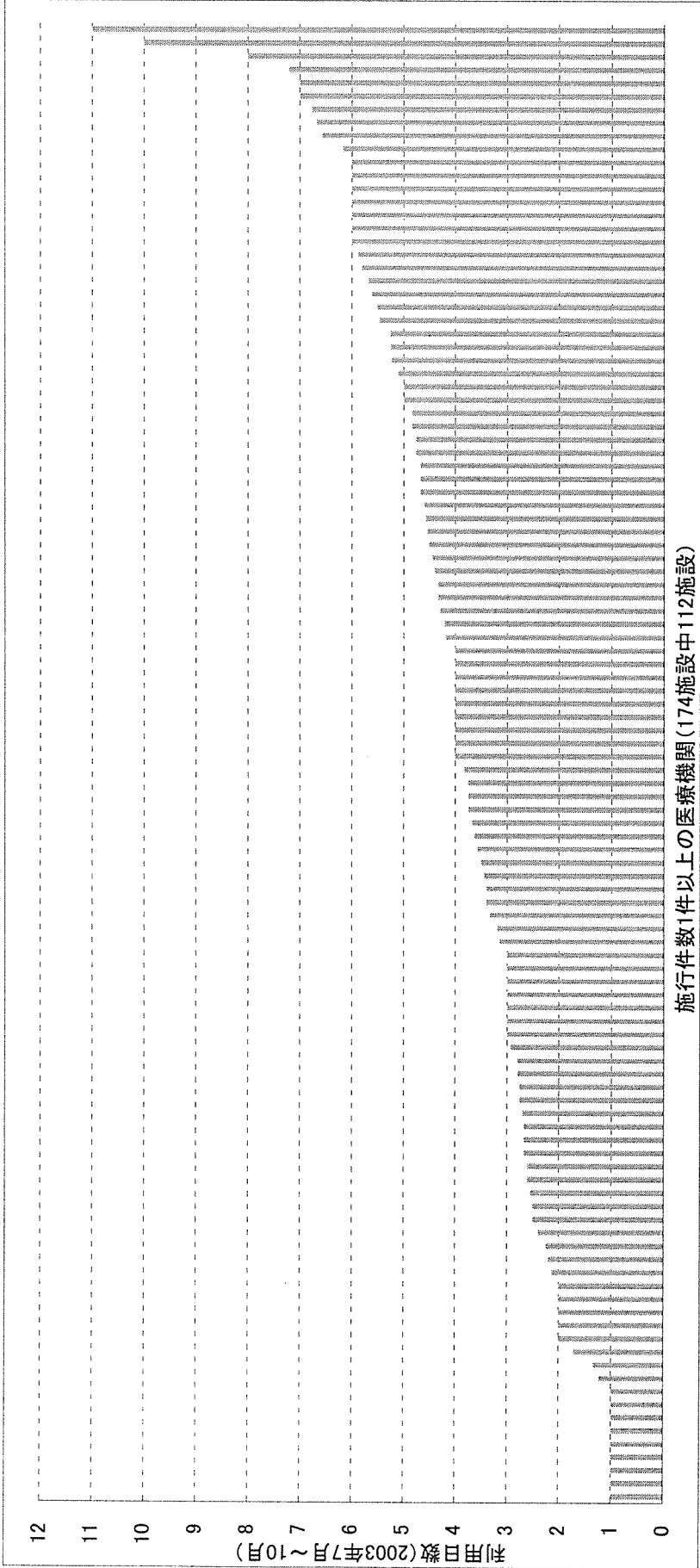
■：入院中に血漿交換を施行した患者数

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は112施設(全体の64%)において見られた。
- ・入院中に血漿交換をしようした患者数は、医療機関で大ききなばつぎが見られた。

血漿交換が施行された患者の平均利用日数

分類名	対象	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
血漿交換	血漿交換を施行された患者の平均利用日数	3.9	1.9	1.0	11.0	1.0	1.7	2.7	3.9	5.0	6.0	6.9



【図の説明】

血漿交換施行件数が1件以上の施設

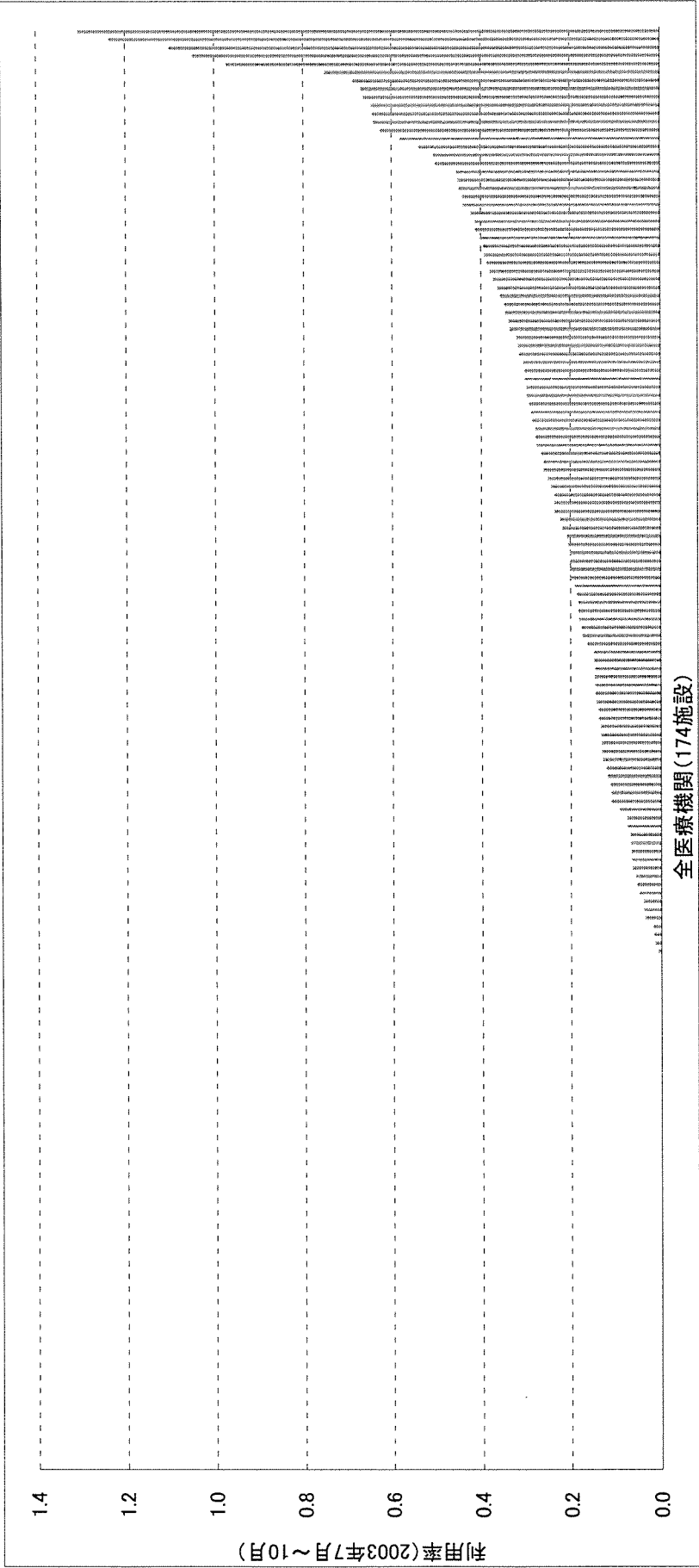
：血漿交換が施行された患者の平均利用日数

【コメント】

・血漿交換が施行された患者の平均利用日数は、1～11日とそれほどばらつきは見られなかった。

血漿交換の利用率(1000患者・日当たりの施行日数)

分類名	対象	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
血漿交換	血漿交換の利用率(1000患者・日あたりの施行日数)	0.19	0.25	0.00	1.30	0.00	0.00	0.00	0.13	0.30	0.45	0.65



【図の説明】

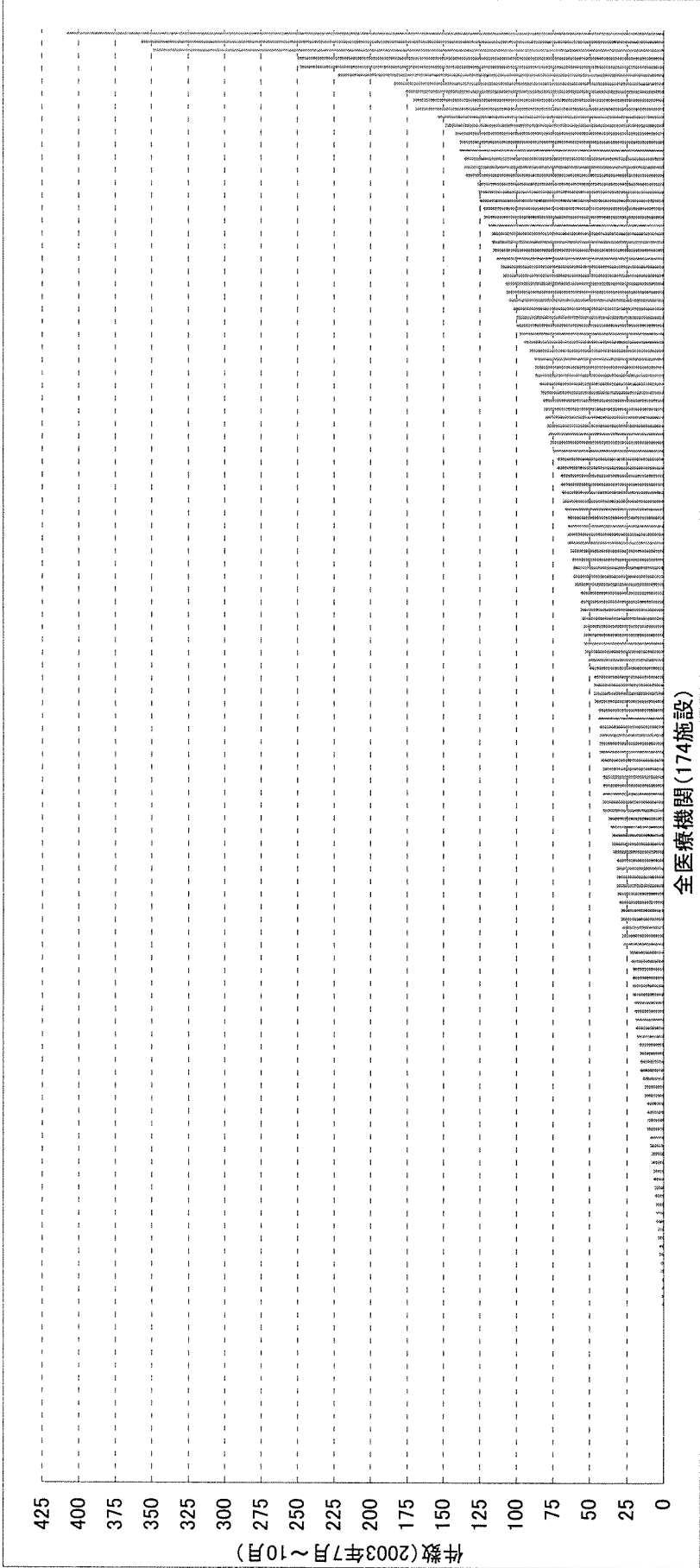
：血漿交換の利用率(1000患者・日当たりの施行日数)
利用率(1000患者・日当たりの利用日数)＝Σ(人工臓器の利用日数)／Σ(在院日数)

【コメント】

- ・件数1件以上の医療機関は112施設(全体の64%)において見られた。
- ・血漿交換の利用率(1000患者・日当たりの施行日数)は、医療機関ではつきが見られた。

人工腎臓を利用した患者数

分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
人工腎臓	人工腎臓を利用した患者数	10,284	59	66	0	408	0	0	11	43	83	133	170



【図の説明】

：人工腎臓を利用した患者数

【コメント】

- ・人工腎臓を利用した件数1件以上の医療機関は153施設(全体の88%)において見られた。
- ・人工腎臓を利用した患者数には、医療機関で大きなばらつきが見られた。